

奈良県立医科大学附属病院長候補者に係る選考概要

1. 選考資料

病院長選考委員会は、吉川公彦氏から提出された「履歴書」、「主な実績」、「所信表明書」及び5名の推薦者による「推薦書」並びに面談でのプレゼンテーション及び質疑応答並びに「奈良県立医科大学附属病院長選考基準」を選考資料として病院長選考を進めた。

2. 病院長選考基準に照らしての評価

基準1「臨床研修等修了医師であること」について、履歴書に記載のとおり、基準に合致している。

基準2「医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有していること」について、医療安全管理責任者としての活動のほか、放射線安全委員会、PET 診療放射線安全委員会、特定放射線同位元素防護委員会等での委員としての活動など、医療安全の確保に関する高度な知識の活用が要求される経験を有する。そのうえで医療安全に関するガバナンス強化と医療安全文化の醸成に向けた施策の展開についての考えを有しており、医療安全のさらなる向上を期待できることから基準に合致していると評価できる。

基準3「人との信頼関係を重視し、社会規範、コンプライアンスを遵守できること」について、診療科だけでなく中央放射線部や IVR センターにおいても医療技術職員を中心に良好な関係を構築し、模範的な人物としての評価も窺えることから基準に合致していると評価できる。

基準4「奈良県立医科大学附属病院の理念を実現するための戦略と実行力を有すること」について、本学附属病院が奈良県民を守る最終ディフェンスラインとしての役割を理解し、救急医療体制の整備に向けた一定のビジョンを有することから基準に合致していると評価できる。

基準5「組織管理能力等の当院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有していること」について、副院長やプロジェクトリーダーとしての経験を通じて組織の意思決定、チームの合意形成、目標と成果の管理手法を習得してきたことは基準に合致していると評価できる。

基準6「法人の運営について、他の役員と一致団結して、公立大学法人奈良県立医科大学の発展に貢献できること」について、現に副院長として活動するほか法人の中期計画委員やキャンパス整備検討 WG のメンバーとして円滑な活動を行っていることから基準に合致していると評価できる。

基準7「医療従事者の新しい働き方についてリーダーシップを発揮できること」について、働き方改革推進のための一定の施策を想定しており、これからのリーダーシップの発揮を期待できることから基準に合致していると評価できる。

基準8「臨床研究を推進するための戦略と実行力を有すること」について、自身の IVR デバイス開発などの業績から臨床研究の推進に求められる要素を理解し、体制整備の推進を期待できることから基準に合致していると評価できる。

3. 結論

吉川公彦氏を次期奈良県立医科大学附属病院長候補者として、理事長に推薦する。

4. 選考経緯

2019年12月5日	選考委員会の設置
2020年1月17日	第1回選考委員会 開催 選考基準案の作成 選考基準の策定、公表、公募開始
2020年1月27日	公募締切
2020年1月30日	第2回選考委員会 開催 選考対象者との面談、質疑応答、理事長へ推薦する候補者の決定
2020年2月5日	役員会へ提案
2020年2月6日	次期附属病院長の決定
2020年2月7日	選定理由の公表
2020年4月1日	附属病院長の任命（予定）